



あ ゆ み

学校だより 7月号

親子で食事 親子で会話
親子で読書



校長 鈴木 学 平成25年7月18日

夏の海を満喫した3日間 臨海自然教室(5年生)

「7月に当たるなんて、今年の5年生はラッキーですね！」と喜んでいたら、連日のこの暑さ。熱中症への対策が大きな課題となった臨海自然教室でした。それでも、活動ごとにペットボトルを用意するなどして、どうにか元気に3日間を過ごすことができました。

特に2日目は、午前が砂浜活動、午後は火を使った塩作りということで、1日目の夜が寝不足気味の子には、ちょっとつらい活動になるのではと心配していました。そんな心配をよそに、砂浜活動では、元気いっぱい走り回ったり、波と戯れたり、夏の海を満喫する子ども達の姿が見られました。

5年生の特に立派だったところは、

- ・素直に話を聞いて、注意されたことをきちんと守れた。
- ・行動が早く、それによって生まれたフリータイムを有効に使えた。
- ・寝具や部屋の片付けが上手で、退所時のルームチェックも一発で合格した。
- ・トイレのスリッパをきちんと揃える子がたくさんいた。

などです。

4年生の宿泊では課題であったお風呂の入り方も、お陰様でおおむね良好でした。(バスタオルだけを持ってお風呂に入ろうとした子がいましたが、まあ御愛嬌ということで・・・)



登校班へのご配慮 ありがとうございました

3クラス・86名という本校最大人数の5年生がいない3日間は、学校全体がひっそりとして、寂しい感じがしました。

5年生の抜ける登校班を心配されて、自主的に臨時の登校班を作ってくださいたり、登校時に付き添ってくださいたりした保護者の方がいらっしゃいました。お心遣いに心より感謝申し上げます。

自分の身は自分で守る！！ 安全な夏休みにしましょう

子どもが被害者になる事件が立て続けに起きていて、心配が絶えませんね。

普段の登下校時、子ども達は、交通指導員・立哨の保護者・ボランティアなど、多くの皆様に守られています。大変ありがたいことですが、反面、“守られることに慣れっこ”になっていることが心配になります。

夏休み中はそういった方がいてくださいますので、自分で安全を確認・判断して行動しなければなりません。ぜひ、この点をご家庭でもよく話していただきたいと思います。

また、ちょっとした不注意で、児童が加害者になることもあります。下の記事は、小5の男の子が、自転車で女性をはねて大けがをさせ、その結果、親に高額な賠償命令が出された。というものです。

被害者にも加害者にもなることなく、安全な夏休みを過ごせよう、お子さんへのご指導とご協力をお願いします。

小5男子自転車 女性をはねる 親に950万円賠償命令

小学5年男子児童の自転車にはねられてたじろりの状態になったとして、被害者女性(67)の家族と保険会社が、男児の母親(40)に計約1億500万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、神戸地裁は5日までに、母親に計約950万円を支払うよう命じた。判決は4日付。

判決によると、児童は2008年9月29日午後7時前、神戸市北区的坂を自転車に乗って時速20〜30キロで下った際、散歩途中の女性に衝突、女性は頭の骨を折る重傷を負った。意識が戻らない状態になった。

田中智子裁判官は判決理由で、児童の前方不注意が事故の原因と判断。母親が十分な指導や注意を怠っていたとはいえない」と認め、女性側へ約3500万円、女性側へ約6千円を賠償するよう命じた。

(7月5日 下野新聞)

表と裏(陰)の努力について

親世代にとって、PL学園の桑田・清原コンビといえば、その後の活躍も含めかなり強い印象があると思いますが、子ども達にとっては、だいぶ遠い存在になってしまったようです。

先日の校長講話では、「また挨拶の話か！！と思われてはいやなので、今日は野球選手の話をして。」という話し出しで、桑田真澄投手の話をしました。



PL学園に入学した桑田投手は、まず、清原選手などチームメイトの体の大きさに圧倒されます。また、練習試合でもよく打たれたので、全てに自信を失い、名門校への入学を後悔したそうです。

それでも、母親などの励ましを受け、努力を続けたのですが、彼の偉いところは、野球の練習(表の努力)以外に、もう1つの努力(裏(陰)の努力)を続けたことです。

寮のトイレ掃除、草むしり、玄関の靴揃え、大きな声での挨拶・・・といった野球とは関係ない裏の努力を続けていくうちに、(彼にとって)不思議なことが起こるようになりました。ヒット性の打球を打たれても、野手の正面にとぶ、ホームラン性の当たりが風に押し戻され外野フライになったり、ファールになったりする。反対に自分が打った何でもないフライが風に乗ってホームランになる、・・・このようなことを感じるが多くなり、当然、試合にも勝てるようになりました。

桑田氏は、「人間は目に見えないものをあまり信用しない。でも僕は目に見えないもの、その力を大事にしたいんです」と言っています。

~~~~~  
そう言えば、昔のお年寄り、「お天道様が見ているよ」などとよく言いました。桑田氏の言葉は、ながく日本の庶民の中にあつた共通の感覚、道徳観に通じるものがあるのでしょうか。

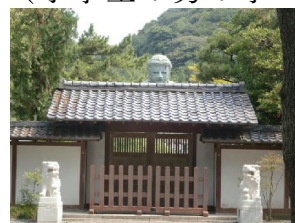
野球に限らず、サッカーが上手になりたい、ピアノがうまくなりたい、勉強ができるようになりたい、そう思っている人は、裏の努力も大切にしてみてもどうでしょうか。

これはいけません。今回の校長講話も、「挨拶・靴そろえ」の話になってしまいました。

## さあ、夏休み！ 心も鍛えましょう

「お天道様が見てる」と同じく、「罰(ばち)があたる」という言葉もめっきり聞かなくなりましたね・・・

鎌倉の大仏の入り口横に、白色大理石でできた狛犬があります。以前休日に訪れた時に、「変わった狛犬だな」と思いながら眺めていると、家族連れ(小学生の男の子二人に両親、祖父母)が、傍らに来ました。



台湾から贈られた狛犬

すぐに下の男の子が「あれに乗りたい！」と、狛犬を指差して言いました。それを聞いたお兄ちゃんが、

「そんなことをしたら罰があたるよ。」と、弟を諭しました。私は、「さすがお兄ちゃん、えらいぞ。」と心の中で褒めてあげました。

しかし、次の瞬間、信じられないことが起きたのです。父親が「罰なんてあたるんねえよ！」と言いながら、下の子を抱き上げて狛犬にまたがせたのです。それを見たお兄ちゃんは、「ぼくも乗る！」と言って、自力でもう一方の狛犬に上りました。拝観券売り場の係員がすぐに飛んできて注意したので、二人は降りましたが、4人の大人は、反省の色も見せず不機嫌そうにその場を立ち去りました。

この兄弟に罰があたらなことを祈ります。でも、二人の息子がよりよい子に育つチャンスを失ったということが、優し過ぎる父親への罰となるのでしょうか。

こんなひどい父親を引き合いに出して、甚だ恐縮です。夏休みには、学校では学べない様々なことを学習して欲しいと思っています。その中に、公德心・忍耐力・規範意識等々「道徳の勉強・心を鍛える勉強」も、加えていただくと嬉しいです。



### 【おねがい】

面談の際、車で来校される方は、必ず南門から出入りし、校庭西側(プール側)に駐車してください。